

地域おこし協力隊への 期待

市長 米本弥一郎



本市の地域おこし協力隊に、金子彰悟さんが2人目の隊員として新たに加わりました。

地域おこし協力隊とは、都市地域から過疎地域などの条件不利地域に移住し、さまざまな「地域協力活動」をしながら、その地域への定住・定着を図ろうという国の制度です。

任期は1～3年で、令和5年度には全国で7、200人の隊員が活動しました。本市では、移住サポートセンターを拠点として、移住・定住に関する支援のほか、SNSを使った情報発信やイベントでのPR活動に取り組んでいただいています。

この制度は、隊員となる人にとっても、自分の経験や能力を生かした仕事に就きながら、その地域で理想とする暮らしや生きがいを見つけることができるというメリットがあります。

金子さんは神奈川県出身で、官民双方での勤務経験があり、行政事務にも精通しています。またユーチューブで配信を行うなど、情報発信のスキルも有している方です。自然豊かな土地で暮らすのが昔からの夢であったとのことで、就任を機に旭市に定住されるそうです。

近年、旭市への移住に興味を持つ人が徐々に増えていっていると感じています。この流れをより大きなものとしていくためには、金子さんのように市外から移り住み、旭市の良さを実感し、それを伝えてくれる人の力が必要だと考えています。

地域おこし協力隊には、さらなる成果を期待しています。そして今後も「チーム旭」に多様な人材を迎え入れ、旭市の魅力をアップさせるとともに、市内外に向けて広く発信していきたいと思っています。